

今週の米国株投資戦略レポート（今週号バロンズ誌加味）

11月1日の週



目次

1. 今週の米国株相場展望 (3P~9P)
2. 注目銘柄ご紹介 (9P~16P)
3. 今週号バロンズ誌主要記事のポイント (16P~29P)



先週の米国株相場

先週は、ダウ指数は 0.40%高、S&P500 指数は 1.33%高、ナスダック指数は 2.70%高だった。小型株の代表的指数であるラッセル 2000 指数は 0.26%上昇した。

(ダウ指数先週 5 日間の動き)



(出所:ビッグチャーツ・ドット・コム)

今週の主要経済指標

主要経済指標としては、9月建設支出、10月ISM製造業景況指数、10月製造業PMI(1日)、10月ADP雇用統計、10月ISM非製造業景況指数、9月製造業受注、9月耐久財受注、10月サービス業PMI(3日)、週次新規失業保険申請件数、7-9月期非農業部門労働生産性、9月貿易収支(4日)、10月雇用統計(5日)などが予定されている。FRBはFOMCを2日から3日にかけて開催する。30-31日にはイタリアのローマで20カ国・地域(G20)首脳会議が開催され、バイデン大統領が出席する予定。

(注目の経済指標、イベント)

○10月 ISM 製造業景況指数…11月1日発表予定

11月1日発表の米10月 ISM 製造業景況指数は60.3と、前月の61.1を下回る見通し。連邦準備制度理事会 (FRB) の政策決定を前に減速が警戒されれば、金利高・ドル高の流れは一服しよう。

○連邦公開市場委員会 (FOMC) 会合…3日 (水) 結果発表

予想は、量的緩和策の段階的縮小を正式決定。米連邦準備制度理事会 (FRB) が10月13日公表した連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (9月開催分) によると、多くの参加者が想定より高いインフレが続くことに懸念を示しており、量的緩和の縮小に着手できるとの考えが示されていた。今回の会合で12年半ばまでに量的緩和の段階的縮小に着手することが正式に決定される可能性がある。完了時期については、現時点で来年半ば頃になると予想される。

○10月雇用統計…5日 (金) 発表予定

予想は、非農業部門雇用者数は前月比+40万人、失業率は4.7%。非農業部門雇用者数の伸びは2カ月連続で予想を大幅に下回っているが、10月については、9月実績を上回る雇用増となる可能性が高いとみられる。民間部門の雇用者数は9月実績 (+31.7万人) をやや上回る増加が見込まれている。製造業部門の雇用者数は9月実績の+2.6万人をやや上回る可能性がある。

(海外の注目経済指標、イベント)

○(欧)9月ユーロ圏失業率…3日 (水) 発表予定

8月実績は7.5%。イタリアとポルトガルでは失業者数が減少しており、他のユーロ圏諸国も似たような傾向となっている。失業者数は2019年の水準を下回っており、若年層の失業率は多少改善している。これらの点を考慮すると、9月の失業率は8月実績と同水準か下回る可能性がある。

(主要企業の決算発表予定)

今週は、消費財のクロックス (1日)、通信のTモバイル、化粧品メーカーのエステーローダー (2日)、半導体のクアルコム、ヘルスケアのCVSヘルス、オンライン旅行会社のブッキング・ホールディングス、ホテルチェーンを運営するマリオットインターナショナル、動画配信のロク、医療会社のヒューマナ (3日)、損害保険のシグナ、旅行情報・予約サイト運営のエアビーアンドビー、保険のAIG、在宅フィ

ットネス事業を展開するペロトン・インタラクティブ、オンライン決済のスクエア（4日）に加え、製薬、バイオ関連ではファイザーやアムジェン（2日）、モデルナ（4日）、エネルギー会社でコノコフィリップス（2日）、デューク・エナジー（4日）、ドミニオン・エナジー（5日）などが予定されている。

先週 29 日の米国株相場

（10月29日（金）3主要指数が史上最高値を更新して引けた背景）

1. 好決算を発表した銘柄が買われ、相場を支えた

石油のシェブロンと製薬のメルクが高い。シェブロンは原油高が追い風となり、29日朝に発表した2021年7-9月期決算で売上高や1株利益が市場予想以上となった。メルクは前日に市場予想を上回る増収増益決算を発表した。

26日に好決算を発表したソフトウェアのマイクロソフトは4日続伸し、上場来高値を更新した。一方、前日夕に発表した決算で売上高が11四半期ぶりに市場予想を下回ったアップルは反落した。マイクロソフトは時価総額でアップルを逆転し、米株で首位になった。時価総額首位の交代は昨年7月以来で、当時はアップルがマイクロソフトを逆転した。

2. 好決算続く

S&P500 企業の約半数が発表を終えているが、その80%以上が予想を上回る純利益を発表し、前年比で38.6%増益予想に上方修正されている。

3. バイデン米大統領、1.75兆ドルの経済対策枠組み発表（法案準備へ）

バイデン米大統領は28日、税制・支出計画について1兆7500億ドル（約200兆円）規模の新たな枠組みを発表した。子育てと医療、気候変動対策における連邦支援を拡大する内容で、法人税の15%最低税率課税や自社株買いへの課税、1000万ドルを超える年間所得に対する新たな課税などで財源を確保する。ホワイトハウスの資料によれば、新たな歳入は10年間で総額2兆ドルと見込まれている。家族を理由にした有給休暇のほか、処方薬に関する取り決めなどが除外された。

バイデン大統領と下院民主党議員の会合の出席者 3 人によると、大統領は「下院および上院での過半数と大統領としての私の職務が来週の展開で決まると言っても誇張ではない」と語り、自分と議員らの将来はこの枠組みを合意可能な法案テキストに取りまとめ、通過させられるかどうかにかかっていると訴えた。以前の提案よりは支出と税の面で負担が軽くなっており、市場の警戒感を和らげている模様。特に税の部分は、法人税を始め、税負担が当初よりも軽くなっている。

4. 米財務長官：インフレは一時的、来年後半までに正常化

イエレン米財務長官は 29 日、インフレは深刻な供給網の目詰まりによる一時的な現象との見方を変えていないと明らかにした。また、人々が職場に復帰し、需要がサービスに戻るにつれてインフレは 2022 年中に正常化するとの見通しを示した。長官は、インフレ圧力は半導体不足とエネルギー価格の上昇が原因だが、エネルギー価格は今後数カ月で鈍化するだろうと発言した。

今週の米国株相場展望

FRB は 11 月 2-3 日の FOMC で資産買入れの段階的縮小（テーパリング）開始を決める公算。早ければ 11 月中に債券買入れの縮小を開始し、2022 年半ばには完了するシナリオがすでに織り込まれている。政策金利の引き上げを巡って、金融当局者の間で見解の相違が存在することが指摘されている。パウエル FRB 議長は 10 月 22 日の講演でテーパリングの重要性に言及しながらも、利上げには慎重な姿勢を強調しており、今回の FOMC では早期利上げに慎重なスタンスに集約される可能性があるだろう。11 月会合でも今後の政策金利に関し強気な見解は聞かれるだろう。

なお、他の主要中銀の金融政策も注目される。ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁は 10 月 28 日、理事会後の記者会見で、「高インフレの局面は想定以上に長期化する」と述べており、将来的な利上げの思惑が浮上している。

（ゴールドマン、来年 7 月の米利上げ予想〈インフレ長期化理由に〉）
ゴールドマン・サックス・グループのチーフエコノミスト、ヤン・ハッチウス氏は、インフレ長期化に伴い米連邦準備制度理事会（FRB）が来年 7 月に利上げを余儀なくされるだろうとの予想を明らかにした。同社はこれまで米利上げが 2023 年になると予測していた。

同社のエコノミストは 29 日遅くに顧客に送付したレポートで、FRB が債券購入プログラムのテーパリング（段階的縮小）終了後の早い時期にフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標レンジを 0-0.25%から引き上げるだろうと予想。2 度目の利上げは 22 年 11 月で、その後は FRB が年 2 回利上げを実施するとしている。

同社エコノミストは新たな予想の主な理由として、米国のインフレがこれまで考えていたよりも長期化する見通しであることを挙げた。テーパリング終了時に、食料とエネルギーを除いた米消費者物価上昇率が依然として前年同月比で 4%を上回る見込みだという。

ただし、米国株には以下の通りの強材料を指摘できる。

（米国株の強材料）

1. バイデン米大統領、サプライチェーン混乱への新たな対策発表

バイデン米大統領は 10 月 31 日、最近のサプライチェーンの混乱に対応するために幾つかの措置を講じた。大統領は最近の混乱について協議するため、欧州連合（EU）を含む主要国・地域の首脳会議を開催した。バイデン氏はローマでの 20 カ国・地域（G20）首脳会議のさなか、物資や機器、原材料の不足に対応するために国家備蓄の放出を迅速化することを目的とした大統領令を発令。サプライチェーンに関する首脳会議はG20 会議に合わせて開かれた。また、ホワイトハウスは同日、供給のボトルネック緩和や通関手続きの改善に向け、メキシコ・中米への資金援助を強化すると発表した。

2. パウエルFRB 議長は、利上げ開始時期をめぐっては慎重な姿勢を保つ

パウエルFRB 議長の 9 月 FOMC 後の記者会見でも明白な通り、インフレが高止まりする割りに利上げ開始時期をめぐっては慎重な姿勢を保つ。供給網の制約によりインフレ高進する半面、米経済減速へのリスクを意識している為だろう。

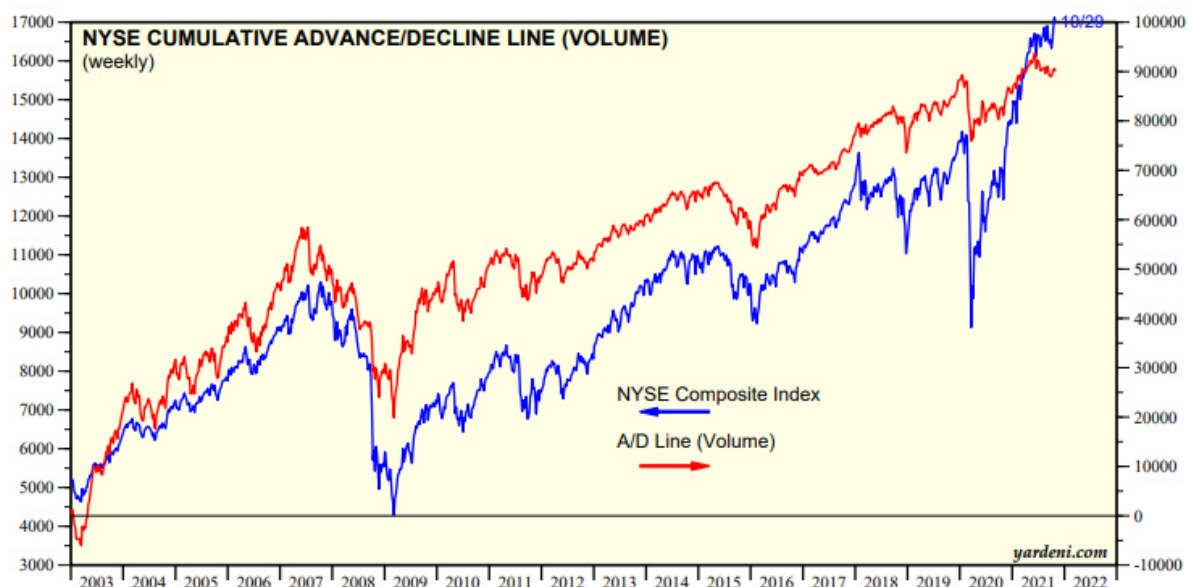
3. 先週は、アップル、アマゾン不振決算だったが、株価はあまり下げしていない

アップル、アマゾンからこれほど悪い四半期決算を予想していた人はほとんどいなかった。アップルの CEO であるティム・クック氏は、サプライチェーンの問題により、同社の四半期売上高が 60 億ドルに上ると述べ、同社が売上高予想を下回った理由を説明した。一方、アマゾンも売上高予想を下回り、同社 CFO は、賃金の伸びとインフレにより、会社の四半期業績に 20 億ドルのコストが追加されたと述べた。

4. A/D ラインも史上最高値を更新

歴史は、少なくとも1つの尺度に基づいて言えば、市場が上昇する可能性が高いことを示唆している。株価の上昇と下降株数を合計で追跡するNYSE 累積アドバンスト/デクライン・ライン（騰落株線）は、先週ようやく過去最高を記録した。サンディアル・キャピタル・リサーチのジェイソン・ゴエプフェルド氏によると、A / D ラインが上昇して90日以上経った後に最高値に達したとき、S&P 500 指数は1935年以來25回のうち22回、3か月後に上昇したと言う。

NYSE 累積アドバンスト/デクライン・ライン（騰落株線）（赤線）
NYSE 総合指数（青線）



（出所:WSJ 紙、ヤルデニ・リサーチ）

5. 供給問題の方が、需要に比べ程度が軽い。また、消費者には多くの貯蓄がある
 経済には需要の問題ではなく、供給の問題がある。自動車会社がそれらを生産するのに苦労しているとしても、人々はまだ新しい車を望んでいる。製造品の注文は堅調で、2021年のほとんどで増加している。米国の消費者も良好な状態にあり、約1.6兆ドルの貯蓄があり、Covid前の2019年の第3四半期に報告された1.2兆ドルを上回っている。これには、株式市場の上昇や住宅価格の上昇は含まれない。供給の問題は需要の問題よりもはるかに多いです。前者も迷惑だが、後者は不況を引き起こします。

今週号（11月1日付）には、次のような記事が掲載されている。
最終的には供給問題は解決するはずだ。電子機器の需要が減りにくいと仮定した場合、アップルやその他の人々を悩ませている問題は、最終的には消え去るはずだ。しかし、部品や半導体不足が、風土病であることが判明した場合はどうなるだろうか。新型コロナは、グローバルサプライチェーンの驚くほど脆弱な性質を明らかにしているため、今後ハードウェア株は株価評価が引き下げられるかもしれない。代わりにマイクロソフト株を所有したいと思うかもしれない。つまり、ソフトウェア株が有利になろう。今週も、米国株は底固い展開を予想する。

注目株

クラウドベースでソフトウェアを提供する SaaS 企業の妙味が高い。今週号バロンズ誌コラム“テック・トレーダー”に以下の通りの記述がある。

（記事のポイント）

アップル株より、マイクロソフト株だ。
先週金曜日のアップル株の決算発表後の下落と、マイクロソフト株の反発により、両社は時価総額の覇権をめぐる戦いに突入している。どちらも約 2.4 兆ドルの価値がある。アップルは当初 5000 億ドル分、マイクロソフトを時価総額で勝っていた。ただし、マイクロソフトが逆転し、その勢いは続く可能性がある。同社は、クラウド、セキュリティ、ゲーム、通信など、ソフトウェアの最もホットな市場のすべてに対応している。アップルは部品の入手に苦労しているが、マイクロソフトはこの四半期に予想よりも多くの Xbox コンソールを販売した。マイクロソフトは、12 月四半期に詳細で説得力のあるガイダンスを提供した。アップルは、サプライチェーンの問題が悪化していると警告している。アップルはアジアの部品サプライヤーに依存している。マイクロソフトはクラウド上に構築されており、輸送コンテナは必要ない。ウォール街のコンセンサスは、2022 年 9 月の会計年度におけるアップルの 1 桁台前半の成長を予想しているが、マイクロソフトは 10%代半ばに成長を続けると見込まれている。

セキュリティ

○フォーチネット (FTNT)

ファイアウォールで著名。ガートナーは、統合脅威管理 (UTM、複数の異なるセキュリティ製品の機能を一つのハードウェアに統合して集中的にネットワーク管理する製品) でトップの座を、次世代ファイアウォール (NGFW) のリーダー格に選定した。FortiGate 500E の性能の高さは抜群。WAN エッジインフラストラクチャーの Gartner Magic Quadrant で上位にランクされ、リストの上位にランキングされている。顧客満足度は高く、アナリスト評価も高い。

○パロアルト・ネットワークス (PANW)

同社は、ネットワークセキュリティで、市場のリーダー的存在だ。同社のプラットフォームは、高度な脅威防御、ファイアウォール、IDS/IPS、URL フィルタリング等主要なネットワークセキュリティ機能をすべて備えており、旧来のファイアウォールや、ポイント脅威検出製品よりも優れたセキュリティを実現している。また、フリーキャッシュフローの額の伸び、有料 WildFire 顧客の増加、契約型サービス収入の伸び等が際立っている。

○クラウドストライク (CRWD)

エンドポイント保護で著名。同社は、「Falcon」という名前でエンドポイント保護オプションの包括的なスイートを提供。これらは、エンタープライズ、中小規模の顧客向けに、市場をリードする包括的なエンドポイントセキュリティプラットフォームのさまざまなオプションを提供し、それぞれが独自の検出および応答 AV 機能を備えている。同社は最近、エンドポイント保護の主要ベンダーの1つとしてガートナーに認められた。176 か国以上で事業を展開しており、エンドポイントソリューションの市場シェアを拡大中。クラウドベースのエンドポイントソリューションとして、柔軟な価格設定オプションと迅速な展開を備えている点が人気の高さの秘訣。

○Z スケーラー (ZS)

クラウド・セキュリティのサービスをサブスクリプション・モデルで提供している。その為、将来の売上数字が読みやすい。マイクロソフトの” Azure ” に統合されたサービス、アマゾンの” AWS ” に統合されたサービスなどがあるが、とりわけマイクロソフト・オフィス 365 の爆発的成長が追い風となり業績を伸ばしている。

この他、RSA、オクタ、ワンログイン、ピン・アイデンティティなどのシングルサインオンプロバイダーと統合されている。ゼットスケラーのデータセンターは世界で100以上の拠点が展開されている。これがシームレスで、負荷の少ないセキュリティを可能にしている。ゼットスケラーのクラウドインテリジェンスにより、利用ユーザーのうち1人でも脅威が検出された場合、すぐにゼットスケラーの全ユーザーに防御機能が適用されるネットワーク効果のある仕様となっている。

○クラウドフレアー (NET)

同社の特徴的なサービスでは、CDN (コンテンツ・デリバリー・ネットワーク) がある。CDN とは、コンテンツを複数エリアのサーバーに配置し、ユーザーのリクエストに対して一番近いサーバーからコンテンツをダウンロードさせる負荷分散サービスだ。クラウドフレアー・アクセスというサービスでは、VPN は不要でファイアウォールで保護されたアプリケーションにも、クラウドへのアクセスと同様に容易にアクセスできるようになる。クラウドフレアのセキュリティ多重制御アプローチでは、複数の DDoS 攻撃への対策機能が1つのサービスにまとめられている。悪意のあるトラフィックによる侵入を防止しながら良好なトラフィックの通過を許可し、Web サイト、アプリケーション、API の可用性とパフォーマンスを維持する。

可観測性ツール

○データドッグ (DDOG)

データドッグは、アメリカに本拠を置く、クラウド開発者等向けに、パブリッククラウド (AWS、Azure 等) で運用するアプリケーションのパフォーマンス管理やログ管理など、リアルタイムで監視・分析可能なプラットフォームを、サブスクリプション形態を中心にクラウド上にて SaaS 形式で提供する企業だ。ユーザーが持つインフラのサーバーや、ソフトの動きを監視し、どこがボトルネックで速度が落ちていたり、改善すればいいかを教えてくれる。監視したい情報を統合してグラフで確認できる。顧客の多くは長期契約しており、売上高が安定成長できる基盤がある。

○ダイナトレース (DT)

クラウドネイティブのインテリジェンスプラットフォームを提供。サブスクリプション型企業である。業務システムのパフォーマンスをリアルタイムで監視し、システムの安定稼働と問題の早期発見・解消につながるサービスを提供。AIにより、運用やシステムの監視・分析の業務を大幅に自動化する。顧客は銀行、保険のほか、小売りや製造業、旅行サービス業であるため、コロナ禍を過ぎれば開拓余地が更に広がる可能性がある。

○エラスティック (ESTC)

同社のソフトウェアのユーザーはソフトウェア開発者で、例えばUberやティンダーのマッチングやイーコマースの検索システム機能の確立のために使われる。バグの早期発見や機能改善など、ソフトウェアの開発上大きなメリットがある。データベースにデータを蓄積し、それを検索によって見える化するもので、オンプレミス、クラウド(AWS、GCP、Azure)に導入することも可能。最初に無料で使ってもらうことで、見込み客を大量かつ低コストで確保できる。

○スプラック (SPLK)

スプラックは、ソフトウェアプラットフォームを提供する米国企業。企業の重要なデータを活用し、リアルタイムのオペレーショナルインテリジェンスを実現するためのソフトウェア製品を提供する。同社製品は、フォーマットや情報源に関係なくデータを収集、索引、検索、調査、監視、分析を顧客に提供する。6月22日、ハイテク分野を得意とする米投資ファンドのシルバーレイクが10億ドル相当のスプラックの転換社債に投資すると、スプラック自身が発表し、成長加速を期待した買いが集まった。

データウェアハウス

○スノーフレイク (SNOW)

様々な場所に保管されたデータをデータウェアハウスで一元管理し、その情報の全貌を社員が共有し、把握できるように可視化するとともに、分析サービスも実施。グーグル、アマゾン、マイクロソフトが独自の同等の製品を持つ前にこのサービスを提供することで、同社は顧客を惹きつけ、データウェアハウス分野で市場シェアを築くことができた。同社の獲得可能な最大市場規模は巨大だ。新しいデバイスやソフトの登場により、生成されるデータ量が急増する為だ。

データベース

モンゴ DB (MDB)

同社は、世界中に汎用データベースプラットフォームを提供している。モンゴ DB の製品はアプリケーション開発者の為のもの。同社は、企業顧客がクラウド、オンプレミス、またはハイブリッド環境で実行できる商用データベース・サービス・パッケージ、クラウドホスティングのデータベース・サービスを提供。エピック・ゲームズの人気オンラインゲームである「フォートナイト」は、モンゴ DB 製品の超高速パフォーマンスのクラウドデータベースを利用している。

販促用ソフト

○セールスフォース・ドット・コム (CRM)

9月23日、投資家説明会に先んじて、22年度通期ベースの売上高ガイダンスレンジを262.5億-263.5億ドルと、従来の262億ドル-263億ドルから上方修正した。予想(262.8億ドル)も上回った。2023年度通期ベースの売上高ガイダンスレンジも316.5億ドル-318.0億ドルになると予想。予想は314.7億ドルだった。パンデミックによって延期されていたIT企業の設備投資が再開しており、同社のプログラムに対する需要が高まっていると説明した。買収戦略も奏功しており、最近買収した企業の製品も加わり、同社の契約を強化する顧客が増加中だ。

○サービスナウ (NOW)

顧客サービス、セキュリティ、人事管理を網羅的・統合的に効率化する SaaS 企業。同社には大きく分けて3つの部門がある。顧客サービス、セキュリティ、人事管理である。IT サービス市場自体がまだ新しく、長期間にわたり、大きな成長が期待できる。3つの部門のうち、人事管理市場は、電話やEメールのような非構造化メッセージを単一プラットフォーム上で構造化し直すことで効率化を実現する。

○ハブスポット (HUBS)

同社は、企業がインバウンド体験を提供できるようにするクラウドベースのマーケティングおよび販売ソフトウェアプラットフォームを提供している。インバウンドマーケティングと販売の経験は、従来のマーケティングと販売の戦術よりも関連性が高く、より有用で、よりパーソナライズされ、邪魔にならないことで、顧客を引き付け、引き付け、満足させる。

同社のソフトウェアプラットフォームは、企業が訪問者を Web サイトに引き付け、訪問者をリードに変換し、リードを顧客に近づけ、顧客を喜ばせるのに役立つ統合アプリケーションを備えているため、それらのビジネスのプロモーターになる。これらの統合アプリケーションには、ソーシャルメディア、検索エンジン最適化、ブログ、Web サイトのコンテンツ管理、マーケティングの自動化、電子メール、分析、およびレポートが含まれる。

○アサナ (ASAN)

米国のソフトウェア企業。さまざまな業界や企業向けに、クラウドベースのソフトウェアの開発を行う。業務効率や生産性を高めることを目的としたタスク・プロジェクト管理ツールを、Web ベースの SaaS アプリケーションや iOS および Android などのスマホアプリとして提供する。アサナが提供するプラットフォームはプロジェクトの立ち上げ、タスクの割当、期限の設定、相互コミュニケーションなど、チームによる業務管理をサポートし、Outlook や Gmail といったメールアプリ、マイクロソフトの Teams やスラックといった協働プラットフォーム、Salesforce をはじめとするクラウドサービスなどと統合することも可能だ。有料顧客は世界全体で 8 万 2,000 社を超え、フォーチュン 500 の約 3 分の 1 の企業が同社と契約しており、上位顧客にはアルファベットやペイパル、そして NASA もいる。6 月 9 日、最高経営責任者 (CEO) が 50 万株の購入を発表。

○ズームインフォ・テクノロジーズ (ZI)

同社は、営業、マーケティング、人材発掘、顧客開拓などに必要なソリューションを SaaS ベースのサービスで提供している。AI 利用により顧客情報が常に自動で最新状態に更新され、最適な優良顧客を自動で分析、スコアリング化する。在宅勤務が一般的になり、“非対面営業”から、“商談成立”まで漕ぎ着ける営業活動を全面支援し、セールスフォース・キラーの異名を持っている。6 月 4 日に IPO 上場。公開価格は 21 ドルだった。ズームインフォは証券当局への提出資料で、2019 年、新規顧客の年間契約額が前年比 87%増加したと記述している。同社のデータベースに収録されている企業数は約 1400 万社、アカウントの個人情報 は 1.2 億件が収録されている。同社の顧客には、フェイスブック、ウーバーなど著名企業が多い。同社の顧客数は約 1.5 万で、99%がサブスクリプションからの売上となっており、売上予想を立てやすいという強みがある。市場規模としては 74 万社の見込み顧客、240 億ドル市場が想定されている。セールスフォース・キラーの異名を持つだけあって、将来が楽しい企業だ。AI により、客情報が常に自動で最新状態に更新される、

その他好業績見通し銘柄

○テスラ (TSLA)

新型コロナウイルスによる景気低迷から抜け出した中国でEV販売を伸ばし、中国で現地生産車の販売を伸ばし、売上高と最終利益はそろって四半期ベースで過去最高を更新した。テスラは上海工場拡張、ドイツ・ベルリン工場建設、トラック、SUV製造と、製造場所と製品を広げている。家庭用エアコン事業参入の可能性もある。主要な中国市場では、中国の自動車販売のわずか5%がEV駆動であり、コロナからいち早く回復した旺盛な消費者需要により、向こう2年間で、主要地域でのEV出荷台数は急増しよう。短期目標株価は950ドルである。

○ネットフリックス (NFLX)

同社のジャンルを超えた成功と、英語以外の番組による成功は、同社が競合他社よりもコンテンツ成長に多くの手段を持っていることを示している。更に、ゲームを提供することでネットフリックスの提供内容を多様化することができる。また、新しいユーザーを引き付ける可能性があり、それがディズニー (DIS) のようなライバルとの競争に役立つ。忙しいホリデーシーズンが近づくにつれ、マクロの逆風、労働力の不足、サプライチェーンの制約が株式に大きな脅威をもたらす。ただし、同社は、事業モデルから、他社に対し、これらの制約に対し有利な位置にある。同社株はほぼ1年間にわたって、以下の通り保ち合いとなっていたが、590ドル超えを果たしたことから、720ドルを目指す展開となろう。

○アドバンスド・マイクロデバイシーズ (AMD)

同社株の強気材料は、①AMDのCPUおよびGPU事業の強靱さ、②ゲーム機向けのカスタムAPU (GPU統合型CPU)の堅調な販売に加え、③デスクトップ、ラップトップ、サーバー各市場でのインテルのシェア減退が挙げられる。またインテルは、国内のファウンドリ拡大と新たなチップ開発を計画していることから利益の減少が見込まれる。もし、インテルの計画がとん挫し、2025年まで成長が低迷した場合、AMDの成長は加速し、株価も倍以上に上昇し、時価総額はインテルを上回る可能性も指摘されている。

○エヌビディア (NVDA)

同社は、ゲーム市場向け製品 (GeForce や任天堂スイッチ等ゲーム機メーカー向けプロセッサ) の売上が絶好調だ。ゲーム産業の盛り上がりとともに主要製品である GPU 需要も高まりを見せている。同社株は、主要なゲーム株で構成される ETF に採用されている。e スポーツへの関心が高まり、プレイヤーは、他者と競争する際にゲーム機が最高の状態でいられるよう、プレイ中に高速処理速度を可能とする GPU の需要が高い。AI (人工知能) 分野でも同社の研究開発は先行している。もともとデータセンター向けが強く、5G 時代に不可欠な GPU を提供している。

○今週号バロンズ誌 (11 月 1 日付) のカバーストーリーは、電気自動車 (EV) 向け蓄電池を取り上げる。

(記事のポイント)

世界の自動車市場で EV 化が進むにあたって、障害は蓄電池以外にない。自動車産業は、マネーが問題を解決すると見込むかのようなようだ。例えばフォードは韓国 SK との合弁会社ブルーオーバル SK を通じ、ケンタッキー州に 2 カ所、テネシー州の 1 カ所のバッテリー工場の建設に 114 億ドル投じる。まるで創業者のヘンリー・フォード氏が 1917 年にミシガン州ディアボーンでリバー・ルージュ工場を開発したような動きだ。その工場では EV 向けの蓄電池を生産するほか、自動車組み立ても行う。ゼネラル・モーターズ (GM) も、バッテリーでの優位性を確保すべく、2025 年までに従来の 270 億ドルから 350 億ドルへ引き上げ、EV 化に向け投資する。フォルクスワーゲン (VW) も、2030 年までに欧州で 6 カ所のバッテリー工場を建設予定だ。

(結論)

テスラが EV レースで優勝、フォード/GM がギャップを埋めるのに役立つバッテリーを有する。テスラ (TSLA) は、従来の自動車メーカーを大きくリードしており、バッテリーの容量と技術に投資し続けている。自動車メーカーは、企業が発表した EV の目標を達成するために、業界は 2020 年代半ばまでにバッテリー容量を 4 倍に増やす必要があることを知っている。バッテリー製造はまた、コストを下げるためにはるかに効率的にならなければならない。

○今週号バロンズ誌（11月1日付）のコラム“アップ・アンド・ダウンウォールストリート”第2段は、インフレと増税を取り上げる。

（記事のポイント）

Fedが超緩和策を巻き戻そうとも、過剰流動性は維持され株式市場にグッドニュース—Even if Fed Tightens, Easy Money Will Be Available. That’s Good News for Stocks.

ここ数週間における世界の金融市場の動向をみると、まるでハロウィーンを先取りしたかのようだ。株式市場は中銀の緩和策巻き戻しと成長鈍化を受け、一時的に下落した。しかし、株式市場は恐怖におののくよりも過剰流動性の施しに支えられ下げ幅を縮小。ダウを始め、主要株価指数は週後半に過去最高値を更新した。

当初、株価の急落はイールドカーブのフラットニングによって生じたと言える。通常、米債利回りはスティーピングするが、10月にイールドカーブは短期債が上昇するなかで長期債が急激に低下。結果、米2年債と米10年債の利回り格差は10月29日に105bp（1bp=0.01%）と、10月8日の129bpから大幅に縮小した。こうしたフラットニングは、米2年債利回りがFedの金融政策見通しを反映し、0.52%とほぼ倍近く上昇した動きがきっかけとなった。

短期債利回りは、FF金利誘導目標が現時点の0-0.25%から2022年末までに25bpの利上げを少なくとも2回行うことを織り込む。利上げは、月1,200億ドルの資産買入の終了後に行われる見通しだ。その手始めとして、11月2-3日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）では、テーパリングが決定されよう。

テーパリングの決定を通じ、Fedは他先進国の中銀が実際に進めるように、緩和策の巻き戻しに着手する。カナダ銀行は10月27日、供給障害を受け予想以上に長引くインフレ高進と況を踏まえ、債券購入プログラムの終了を決定すると共に早ければ22年4月にも利上げを行う見通しを示した。

著名な経済学者ジョン・メイナード・ケインズ氏の名言「事実が変化すれば、意見も変わる」に、金融当局者が忠実であることは、いつになっても興味深い。しかし、カナダ銀行（BOC）だけが、パンデミック下で導入した超緩和策からの脱却を図ろうとしているわけではない。

イングランド銀行や豪準備銀行、NZ 準銀行 (RBNZ) など、アングロサクソン系の中銀も同様で、RBNZ に至っては利上げはインフレ高進と住宅市場の過熱を抑制すべく、10月6日に利上げを開始した。

BOC が債券購入プログラムを終了するという驚きの措置を講じた結果、10月27日の株式市場は恐怖に包まれた。まるで、世界中の中銀関係者がジャン・クロード・トリシェ氏の恐ろしい顔を施したハロウィーンの仮面を被って登場したかのようだったからだ。トリシェ氏と言えば、2011年半ばに欧州債務危機が深刻化した際に利上げを行った欧州中央銀行の総裁であり、世界大恐慌の第2段階を引き起こした1937年のFRBの引き締めを思い起こさせるような失態で知られる。同日、ダウは266ドル安で引け、中小型株指数のラッセル2000は2%安で取引を終えた。

マルコ・コラノビック氏とブラム・カプラン氏率いる J.P. モルガンのグローバル・ストラテジー・チームは、世界がその日から一変したかとの問いに、否と答える。イールドカーブの変化に加え、株式や商品先物の動向、マクロ経済指標、減少するコロナウイルス感染者の動向、企業業績をみると、そのような兆候は見当たらないという。

ただし、ポートフォリオの大幅な入れ替えを指摘し、株式の割高感が強まるに合わせ株式の売りと債券の買いを引き起こしたと分析する。また、足元で投資適格級の社債への資金流入が断続的に確認されているようだ。

特に、民間の年金ポートフォリオは株高の局面で株式価値を維持して債券を購入したり、退職金の負債を保険会社に預け、当該保険会社は社債など利回りの高い商品でリターンを得る傾向がある。このような制度的背景から、低い利回りにもかかわらず、株価の上昇は債券の需要を高める。

超緩和策からの脱却を図る中銀が増えているとはいえ、彼らは引き締め策に転じているわけではない。イールドカーブは過去と比較すると依然としてスティーピング傾向にあり、市場が緩和的スタンス継続を織り込む様子が読み取れる。実質金利もゼロあるいはマイナス圏にあり、インフレ高止まりが一過性に過ぎないことを表す。足元で話題の供給網の制約はいずれ解消に向かうだろう。ただし、当局者が見過ぎしがちな住宅コストを大きく反映するサービス部門のインフレ低減には、ほとんど繋がらない見通しだ。

何より、金利はエコノミストが中立金利（緩和的でも引き締めめでもない中立な金利水準）を超えるまで、引き締め寄りにはならない。パンデミック下で巨額の財政出動が行われ、家計の純資産は株高や住宅価格の高騰を受けて大幅に拡大した結果、中立金利はかつてより上昇した。さらに、2008-09年の金融危機時から派生したデレバレッジによる押し下げ効果は、もはや見られない。その陰で、定年に向け投資し続けたベビーブーマー世代は、引退に合わせ資産を売却していただくだろう。

Fedは（経済金利見通しによれば）中立金利を2.5%と考えているが、BCAリサーチはそれより高い水準を見込む。仮にそうであれば、現状のFF金利水準はもとより、0.5-0.75%などは決して引き締め寄りではない。いずれにしても、コロナ禍にあった2020年、危機的状況のなかで講じられ経済と資産市場に何兆ドルも投入された緊急対応策は、賞味期限を過ぎている。

今週号（11月1日付）バロンズ誌コラム“ザ・トレーダー”第1段は、「株式市場を売る理由は何百もありますが、売らないでください」と題して、以下の通りの見解を述べている。

（記事のポイント）

株を売る時期が来た理由は、ますます増えています。しかし、購入する理由は1つだけです。それは、株式市場が上昇していることです。

今年も何度もそうだったように、先週は株を軽くする理由がたくさんありました。Apple (AAPL)、Amazon.com (AMZN)、Boeing (BA) などからの決算の失望がありました。米国の国内総生産が弱いことや、イールドカーブの迅速な平坦化さえも、株式市場はそれをすべて無視しました。

ダウ工業株30種平均は142.54ポイント(0.4%)上昇し、S&P 500は1.3%上昇し、ナスダック総合指数は2.7%上昇しました。3つすべてが記録的な高値で週を終えました。

イールドカーブ（短期と長期の財務省証券の利回りの差）は、1日で0.15パーセントポイント低下しました。これは、連邦準備制度が金利を急上昇させるのではないかという懸念から非難された大規模な動きです。それでも、テクニカルな理由が狭まりの背後にある可能性が最も高いです。

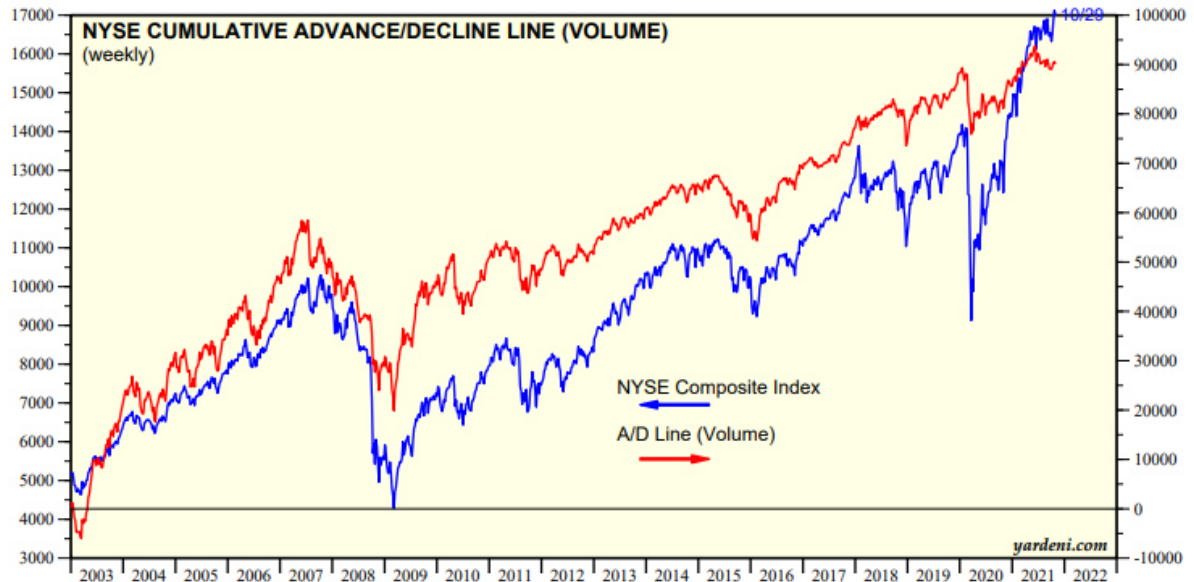
私たちのほとんどにとって、曲線を監視する必要があるのは、曲線が「反転」するときだけです。これは、短期金利が長期金利よりも高い場合であり、通常、景気後退が進行中であることを示しています。現在の差は 1.0678 ポイントです。まだその近くにはありません。

アップルとアマゾンからの収益の落ち込みでさえ、株式市場を傷つけることはありませんでした。そして、それはアップルとアマゾンの株を実際に傷つけることもありませんでした。Apple は金曜日に収益予測を達成し、売り上げを逃しただけで下落したが、それでも 1 週間では 0.8% 上昇しました。アマゾンはすべてを逃した後、先週の金曜日に下落しましたが、それも 1.1% 上昇して 1 週間では、高く終了しました。オランダの南北アメリカのシニアマーケットアナリストであるエドワードモヤ氏は、次のように述べています。

特に 9 月の 5% の急落中の背景には、特に非常に多くの悪いニュースに直面して、市場の回復力が損なわれることなく、恐れられるものであることを示唆している可能性があります。とにかく、少なくともプロは、特に年末までに市場に追いつく必要がある場合は、全て賭けるしかないかもしれないとウェリントン・シールドのフランク・グレッツ氏は指摘していますが、それは強気市場を動かし続ける可能性があります。「市場は多くの悪いニュースを無視/生き延びてきました」と彼は書いています。

歴史は、少なくとも 1 つの尺度に基づいて言えば、市場が上昇する可能性が高いことを示唆しています。株価の上昇と下降を合計で追跡する NYSE 累積アドバンスト/デクライン・ライン（騰落株線）は、先週ようやく過去最高を記録しました。Sundial Capital Research の Jason Goepfert によると、A / D ラインが 90 日以上経った後に最高値に達したとき、S&P 500 指数は 1935 年以來 25 回のうち 22 回、3 か月後に上昇しました。中央値は 4.1% です。「非常に長い歴史の中で、物色の幅が広がった後は、株価上昇の確率が高くなります。物色範囲が広がった後、少なくともただ 1 回の限定的下落の後上昇する確率が高くなります。

NYSE 累積アドバンスト/DECLINEライン (騰落株線) (赤線)
 NYSE 総合指数 (青線)



(出所:WSJ紙、ヤルデニ・リサーチ)

今週は、ファイザー (PFE)、エレクトロニックアーツ (EA)、ロク (ROKU) からの決算発表、FRB の会合、10 月雇用統計の発表があり、いずれも売りの言い訳として使用できます。でも、しないでください。

今週号 (11 月 1 日付) バロンズ誌コラム “ザ・トレーダー” 第 2 段は、「AMC 株を忘れてください。Cinemark 株を購入する時が来ました。」と題して、以下の通りの見解を述べている。

(記事のポイント)

Reddit トレーダーの軍隊を擁する AMC エンターテインメントホールディングス株は、その瞬間に脚光を浴びました。今度は Cinemark Holdings の番です。

今年最初の 7 か月間に、AMC 株 (ティッカー: AMC) は 1,600% 以上上昇し、Cinemark (CNK) は 11% 下落しました。デルタの変種が人々を映画館から遠ざける原因となったため、映画ではなくミームが明らかに株を動かしていました。

もはやそうではありません。7月末以降、Cinemarkは21%上昇し、AMCは4.5%下落しました。株価パフォーマンスの変化は、投資家が再び興行収入を見ていて、彼らが見ているものを気に入っていることを示唆しています。デルタの衰退と映画の強力な新作が出て来るため、Cinemarkの株価は引き続き上昇すると予想されます。

第3四半期の興行収入が素晴らしかったわけではありません。ブラックウィドウは幸先良い門出となったとバリントンのアナリスト、ジェームズ・ゴス氏は述べていますが、デルタバリエーションと、より新作がすくなくったことの組み合わせは、それほど悪影響を及ぼさなかった。劇場はわずか155本の映画のチケットを販売しました。これは2019年の同時期の半分未満であり、興行収入全体は当時の半分未満でした。

第4四半期はもっと良いはずですが、IMAX (IMAX) は、デューンや他の映画のおかげで10月が記録的に最高であり、Cinemarkも恩恵を受ける可能性が高いと述べました。マーベルのエターナルズ、ゴーストバスターズ:アフターライフ、スパイダーマン:ノーウェイホームなど、今年の残りの期間にリリースされる映画の長いリストも、10月が1回限りではないことを証明するかもしれない。「今年の残りの期間に劇場に入る大ヒットコンテンツのより一貫した新作があります」とゴス氏は書いています。

これはすべて、今週の金曜日に決算を発表する予定のCinemarkにとって特に良いはずですが、迫り来る問題がある場合は、リリースに向けて期待が高すぎる可能性があります。それがIMAXに起こったことであり、IMAXは予想よりもわずかに高い売上高で、予想よりも小さい損失を報告しました。金曜日の株価は6.2%下落しました。

それでも、Cinemarkの株価は2年前の約半分に下がっていますが、IMAXはわずか11%下がっています。これにより、Cinemarkは、4億3200万ドルをわずかに超える売上高で、1株あたり60セントの損失を報告すると予想される場合、収益に向けてより小刻みに動く余地を与える可能性があります。

MKMアナリストのエリック・ハンドラー氏は楽観的です。「Cinemarkの第3四半期の結果は、事業が着実に勢いを増しているため、さらなる改善の兆候を示すはずですが」と彼は書いています。「CNKは、第4四半期の映画リリースのより一貫した傾向に基づいて変曲点にあると信じています。これは、興行収入の有意義なステップアップにつながります。」

収益の改善は、Cinemark が封鎖を乗り切るために取った 36 億 4000 万ドルの長期債務を返済するのにも役立つはずですが、債務が返済されると、より多くの報酬が株主に発生します。これは、株式を後押しするものでもあるはずですが、とハンドラー氏は言います。これが、金曜日の終値 18.80 ドルから 17% 上昇する可能性を反映して、先週の月曜日に株価の目標価格を 17 ドルから 22 ドルに引き上げた理由の 1 つです。「今後数年間で、レバレッジ解消の良いストーリーが生まれるはずですが」と彼は書いています。彼が正しければ、シネマークの席を確保する価値があります。

今週号 (11 月 1 日付) バロンズ誌コラム “ザ・トレーダー” 第 3 段は、「アップルとアマゾン不足によって非難されました。これが悪いなかでも、良いニュースです。」と題して、以下の通りの見解を述べている。

最初は、自動車会社でした。それからそれは工業に移りました。現在、Apple と Amazon.com は、悪化しているように見える世界的なサプライチェーンの問題に見舞われています。そして、大型ハイテク株に耐性ができていない場合、不足は今シーズン以降の企業にとって増大するリスクになる可能性があります。

2 人のハイテク巨人からこれほど悪い四半期を期待していた人はほとんどいませんでした。Apple の CEO である Tim Cook 氏は、サプライチェーンの問題により、同社の四半期売上高が 60 億ドルに上ると述べ、同社が収益の見積もりを逃した理由を説明しました。一方、Amazon は収益の見積もりを逃し、CFO の Brian Olsavsky 氏は、賃金の伸びとインフレにより、会社の四半期業績に 20 億ドルのコストが追加されたと述べました。

金曜日の市場前取引では、アップル (ティッカー: AAPL) とアマゾン (AMZN) の株価はそれぞれ 3.5% と 4.8% 下落しました。

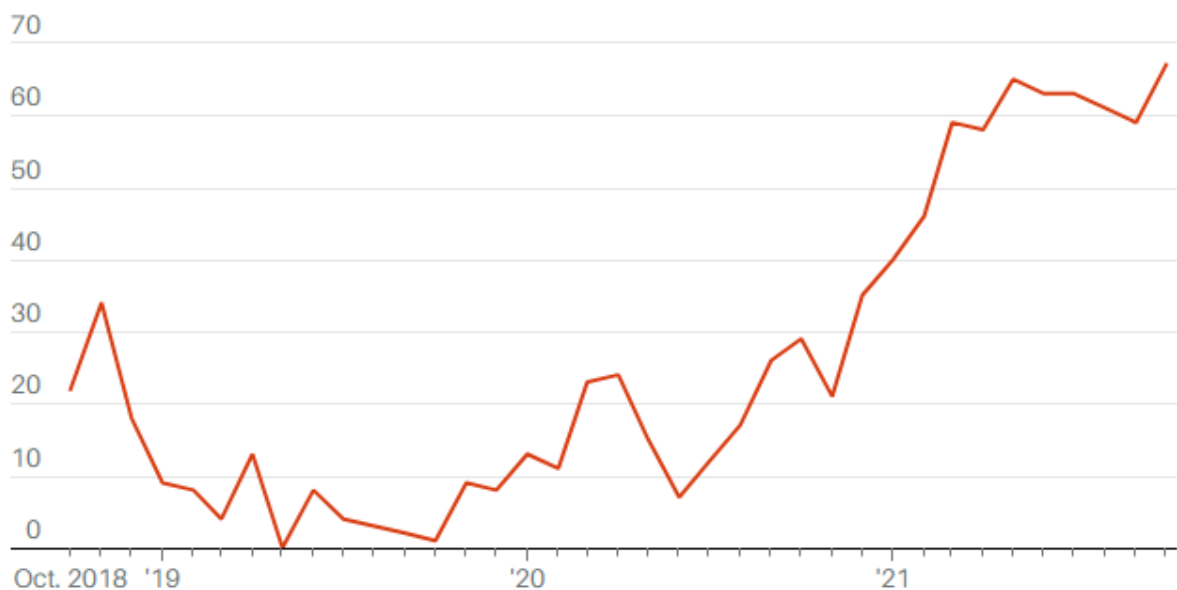
インフレ、サプライチェーンの遅延、収益の損失はひどいように聞こえますが、自動車株や工業からの収益を見ている人にとっては当然のことです。

自動車会社は、半導体の不足のために 2021 年に何百万もの生産ユニットを失いました。ゼネラルモーターズ (GM) の出荷は、第 3 四半期に 33% 減少しました。工業会社はインフレを相殺するために取り組んでおり、ゼネラルエレクトリック (GE)、ハネウェルインターナショナル (HON)、キャタピラー (CAT) などの企業は、第 3 四半期のコストを相殺するために値上げに頼らざるを得ませんでした。

投資家はそれらの問題にお金を払っています。S&P 500 指数が 4% 上昇したのに対し、4 銘柄はすべて過去 3 か月で平均 3% 下落しました。大型ハイテク株はこれらの問題の影響を受けないはずでした。あるいは、ナスダック総合指数が 5% 上昇し、Amazon と Apple の株がそれぞれ 6% と 16% 上昇したため、企業は物事をうまく手に入れるはずでした。第 3 四半期のレポートは、そうではなかったことを示しています。

(製造業のリードタイム (注文してから入荷するまでの期間))

50 以上は、リードタイムが加速化していることを示す。10 月に最高値をつけた



(出所:リッチモンド FED)

では、次は誰ですか？小売業者は当然の選択です。彼らは通常、収益シーズンの終わりに向かって報告し、Amazon と同じ業界で運営および競争しています。Amazon が問題を管理できない場合、他の小売業者もおそらく管理できません。

さらに、投資家はこれらのリスクに気づいていないようです。S&P 500 指数の専門小売業者 (Home Depot (HD)、Best Buy (BBY)、Ulta Beauty (ULTA) など) は、過去 3 か月で 11% 増加しています。専門小売サブセクターは 10 月 26 日に 52 週間の最高値を記録しました。個人投資家は、貨物インフレと困難な休日の輸送についてのコメントに備える必要があります。

それでも、良い兆候もあります。経済には需要の問題ではなく、供給の問題があります。自動車会社がそれらを生産するのに苦勞しているとしても、人々はまだ新しい車を望んでいます。製造品の注文は堅調で、2021年のほとんどで増加しています。米国の消費者も良好な状態にあり、約1.6兆ドルの貯蓄があり、Covid前の2019年の第3四半期に報告された1.2兆ドルを上回っています。株式市場の上昇や住宅価格の上昇は含まれません。

供給の問題は需要の問題よりもはるかにましです。前者は迷惑ですが、後者は不況を引き起こします。今のところ、これは短期的な問題と見なします。

今週号（11月1日付）バロンズ誌コラム“テック・トレーダー”は、「GAFAMの決算発表は終わりました。投資家が残念な週について知っておくべき6つのこと」として、以下の通り報じている。

（記事のポイント）

ハイテク決算が集中した週は失望でした、そして残念ながら、物事は第4四半期にはるかに良くなる可能性は低いです。それでも、長いゲームをプレイしている場合は、ジャンプする理由はありません。新たな機会が生まれています。

GAFAM5社全てが先週決算を発表しました。Amazon.com（ティッカー：AMZN）とApple（AAPL）は、木曜日引け後30分以内に期待外れの結果を発表しました。一斉に、彼らはハイテクの土地でのさやかな地震のように感じました。彼らの決算発表は、週の初めにFacebook（FB）、つまりメタからの同様に弱いパフォーマンスに続いた。Alphabet（GOOGL）は少し良くなりましたが、Microsoft（MSFT）が明らかに勝者であり、予想よりも良い結果と印象的なガイダンスを発表しました。

技術部門は、修正にかなりの時間がかかる一連の長引く交差する問題に取り組んでいます。ビッグテック企業にとっての朗報は、需要に問題がないことです。これは、十分な部品を見つけ、十分な商品を生産し、商品を顧客の手に渡すことです。

ビッグウィークの収益からの6つのポイントは次のとおりです。

マイクロソフトは人気がありますが、アップルはそうではありません。金曜日の Apple 株の決算発表後の下落と、週の初めの Microsoft の収益主導の反発により、両社は時価総額の覇権をめぐる戦いに事実上結びついています。どちらも約 2.4 兆ドルの価値があります。Apple は 5000 億ドルのリードを持っていました。Microsoft の勢いは続く可能性があります。同社は、クラウド、セキュリティ、ゲーム、通信など、ソフトウェアの最もホットな市場のすべてに対応しています。Apple は部品の入手に苦労しているが、Microsoft はこの四半期に予想よりも多くの Xbox コンソールを販売した。マイクロソフトは、12 月四半期に詳細で説得力のあるガイダンスを提供しました。Apple は、サプライチェーンの問題が悪化していると警告した。Apple はアジアのコンポーネントサプライヤーに依存しています。Microsoft はクラウド上に構築されており、輸送コンテナは必要ありません。ウォール街のコンセンサスは、2022 年 9 月の会計年度における Apple の 1 桁台前半の成長を求めています。Microsoft は 10 代半ばに成長を続ける準備ができているようです。

Facebook CEO は決算発表で、インターネットの次の進化となるメタバースへの最初の頭金として、今年 100 億ドルを投資する計画を発表しました。(アイデアを得るには、Ready Player One を読むか見る必要があります。)彼はまた、同社は今後 2 つのセグメントで財務結果を報告するとしています。(収益を生み出す) ソーシャルアプリを 1 つのバケットに入れ、(お金を消費する) メタバースと分けて発表します。そして、投資家が要点を見逃した場合に備えて、木曜日に Facebook は社名を Meta に変更しました。12 月 1 日に、株式は新しいティッカー MVRS を取得します。

論争の渦中にある誤った方向性のプレーとしてこれを却下するのは簡単ですが、ザッカーバーグ氏は他のプラットフォームへの彼の会社の依存を減らすことに焦点を合わせているようであり、意味があります。iPhone または Android デバイスで Facebook と Instagram を使用する可能性はかなり高く、会社はそのビジネスの一部を Apple と Google に譲渡する必要があります。これは、Google が持ち株会社として Alphabet を作成するよりも厳しいステップです。これは、Facebook よりも大きくて優れたものを構築する必要があるとザッカーバーグ氏が賭けていることです。それがうまくいくとは思いませんが、Facebook の CEO には根性があります。

サプライチェーンの問題は普遍的です。Apple は、東南アジアでの部品不足と Covid 関連の製造問題により、この四半期の収益が 60 億ドル減少したと語った。AppleCEO の TimCook 氏は投資家に、製造業の問題はその後緩和されたと語っています。それでも、かつて Apple のロジスティクスを管理していたクック氏は、部品不足がいつ終わるのかについて推測することを拒否しました。実際、彼は、Apple が 12 月の四半期に部品の問題でさらに多くの収入を失う可能性があるかと警告しました。アップルだけではなく。部品不足は、プリンターメーカーの Xerox (XRX)、ディスクドライブの巨人 Western Digital (WD)、会議電話メーカーの Poly (POLY) など、先週報告したほぼすべてのハードウェア企業を悩ませました。

問題はチップだけではなく。地球上での物理的な商品の輸送も深刻な問題であり、航空貨物と海上貨物の両方の可用性が厳しく、コストが高騰しています。アマゾンでは、予想よりも弱いホリデー四半期の結果を予測する際に、より高い送料と人件費を要求しました。専門のガラスメーカーであるコーニング (GLW) は、商品原価に対するインフレ圧力に対応して、価格を全面的に引き上げると述べました。これにより、コーニング製品を使用するテレビ、スマートフォン、自動車などの価格上昇圧力が高まります。

9 月四半期の Amazon の収益成長率は、1 年前の 37% から 15% に低下しました。その一部はサプライチェーンの問題を反映していますが、それだけではなく。Shopify (SHOP) と eBay (EBAY) の先週の結果を見てください。e コマースは依然として実店舗から市場シェアを獲得していますが、人々が直接買い物に戻るにつれて成長は鈍化しています。

これらの問題のほとんどは、最終的には解決するはずですが。電子機器の需要が腐りにくいと仮定した場合、Apple やその他の人々を悩ませている問題は、最終的には消え去るはずですが。しかし、不足が今や風土病であることが判明した場合はどうなりますか？ Covid は、グローバルサプライチェーンの驚くほど脆弱な性質を明らかにしているため、ハードウェア株は評価の削減に値するかもしれません。代わりに Microsoft を所有したいと思うかもしれません。

(その他の主要記事)

★ロビンフッド (HOOD)

ロビンフッドはビジネスモデルにもかかわらず真剣に受け止められることを望んでいます。ロビンフッドは規制当局と長期投資家に真剣に受け止めてほしいと望んでいます。そのビジネスモデルは YOLO の、初心者投資家に依存しています (YOLO=あなたの人生は一度だけ)。しばしばレバレッジのきいたミームコインとデリバティブで取引します。同社が現時点でこれらの聴衆のどちらかを満足させることができるかどうかは明らかではない。最新の決算結果が投資家を失望させた後、先週水曜日の株式は 9% 下落しました。

★ソノス (SONO)

ソノス株は 60% 上昇する可能性があります。ハイテクゴリアテスに敵対するほとんどの企業は、破壊されたり飲み込まれたりすることになります。ゴリアテスは、スマートステレオ企業の Sonos (SONO) であり、ソノスは、破壊されるどころか、少なくとも法廷で 1 人のライバルに勝っています。同社は最近、スマートスピーカーの設計に関する Alphabet (GOOGL) に対する特許侵害訴訟で予備判決を勝ち取りました。これは、新しいライセンス収入の流れにつながる可能性があります。Sonos 製品の需要はこの 1 年で急増し、その成長はまだ株価に反映されていません。

★マディソンスクエアガーデンスポーツ (MSG)、MSG エンターテインメント (MSGE)、AMC ネットワーク (AMCX)

MSG エンターテインメント、MSG スポーツ、AMC は割安に見える。投資家は、マディソンスクエアガーデンスポーツ (MSG)、MSG エンターテインメント (MSGE)、AMC ネットワーク (AMCX) の 3 つの魅力的な企業を安価な価格で購入することを検討する必要があります。オンラインスポーツギャンブルは、今後数か月以内にニューヨークで開始される予定ですが、広告、ファンの関与、マディソンスクエアガーデンでの潜在的なスポーツブックのおかげで、MSG スポーツと MSG エンターテインメントの両方にとって大きなプラスになるように見えます。次に、AMC ネットワークがあります。AMC ネットワークには、AMC でヒットシリーズのウォーキングデッドなどがあり、さらに IFC、サンダンス、BBC アメリカのケーブルチャンネルを提供しています。

★シーメンス (SIEGY)

シーメンスは自らを変革し、株は魅力的に見える。ヨーロッパの産業大手シーメンスは、その運営を簡素化するために多くの進歩を遂げました。株価は魅力的に見え、来年に少なくとも 25%の上昇を見込めよう。



Sources above: Bloomberg、Reuter、WSJ、benzinga.com、marketwatch.com、theflyonthewall.com、96ut.com、Nikkei.com

Important Disclosures and Specific Risk Factors:

Any recommendation, rating or price target is based on the analyst(s) quotation of the various sources provided. These are not the recommendations, ratings or price targets of American Capital Partners, LLC or the person distributing this commentary. Risks include various industry, macroeconomic, geopolitical, and market-related variables for each company/industry being quoted from the various sources provided.

Certification:

The name which appears on the commentary certifies that: (1) no part of their compensation was, is, or will be directly or indirectly related to specific recommendations or views expressed in the commentary by the analyst(s) quotation of the various sources provided.

Important Information on the Preparation and Use of this Commentary:

American Capital Partners, LLC is located at 205 Oser Avenue, Hauppauge, New York 11788. This commentary is not an offer to sell or the solicitation of an offer to purchase any security in any jurisdiction where such an offer or solicitation would be illegal. Investors in certain states or other jurisdictions may be prohibited from purchasing the subject securities in this commentary.

The information in this commentary is not a complete analysis of every material fact representing the companies and/or industries. It was obtained from various sources which although we believe to be reliable, we do not guarantee its accuracy or completeness.

The securities or strategies discussed in this commentary may not be suitable for all investors, and it is recommended that investors seek financial advice regarding the appropriateness of investing in any securities or investment strategies mentioned in any commentary.

=以上=

本レポートは、米国のマンハッタン・グローバル・フィナンシャル社が作成したものです。本レポートは、信頼できると考えられる公開情報に基づき作成されたものですが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。本レポートに記載された内容等は作成時点のものであり、今後、予告なく変更されることがあります。本レポートは投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。本レポートに含まれる情報につきましては、投資家ご自身の判断と責任においてご利用ください。

キャピタル・パートナーズ証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局（金商）第 62 号
日本証券業協会加入、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会加入